

# HELLO クリス!!

## Sounds !

日本語と英語は表現が違います。私は日本語の勉強を始めた時に気がつきましたが、まだびっくりすることがありました。

それは、動物の鳴き声の擬音です。英語と日本語の擬音ではまったく違うと思います。英語で、犬の鳴き声は「ウフーウフー (woof woof)」「ラフーラフー (ruff ruff)」、蛙は「リッピトリッピト (ribbit ribbit)」「クロッククロック (croak croak)」、雄鶏は「コッカデウツダルデウ (cock-a-doodle-doo)」、豚は「オインクオインク (oink oink)」、そしてアヒルは「クアッククアック (quack quack)」です。英語と日本語が似ている動物の鳴き声は、猫の「ミャウー (meow)」と牛の「ムー (moo)」です。

英語圏の人と日本人が発する言葉も違います。英語圏の人は痛いときに「アウチ (Ouch)」とか「アウー (ow)」と言います。日本人は「痛い」という言葉を使うということを習った時は信じられませんでした。他には、くしゃみの後、アメリカ人とヨーロッパ人はよく「ゴッド・ブレス・ユー (God Bless you!)【神様はあなたを祝福している】」と言います。私は言葉と意味が違って、くしゃみの後に全員何か言うものだと思っていました。逆に日本人は、アメリカには「いただきます」「ご馳走様」「ただいま」「お帰り」という言葉がないことに驚きます。

みなさんは日本語と英語の表現の違いで他に驚いたことはありますか？動物の英語の鳴き声が分かりますか？

## 人口と 6/30 現在

### 世帯数 (内は前月比)

人口	11,942 人	(- 11)
男性	5,568 人	(- 3)
女性	6,374 人	(- 8)
世帯数	5,162 世帯	(- 7)

## 【鬼北町人権教育協議会からお知らせ】

鬼北町人権教育協議会では、啓発活動の一環として、人権に関するビデオ・DVDの貸し出しを行っています。貸し出しは無料です。どなたでもご利用できます。家庭や学校、職場、地域でご活用ください。



### めぐみ

昭和52年、当時中学1年生だった横田めぐみさんが、学校からの帰宅途中に北朝鮮当局により拉致された事件を題材に、残された家族の苦悩や、懸命な救出活動の模様を描いたドキュメンタリー・アニメ。



### 未来への虹

～ぼくのおじさんは、ハンセン病～

ハンセン病元患者の平沢保治さんをモデルにして書かれた子ども向けの本「ぼくのおじさんはハンセン病 - 平沢保治 -」をもとに小学校高学年以上の方に見てもらうことを目的として作られたものです。平沢さんは、この作品の中で、これからの未来を担う子どもたちに、差別の痛みや苦しみ、帰りたくても帰れないふるさとへの想い、そして「人権」の大切さを語りかけています。

生涯教育課 文化スポーツ係 ☎45-1111 内線 412